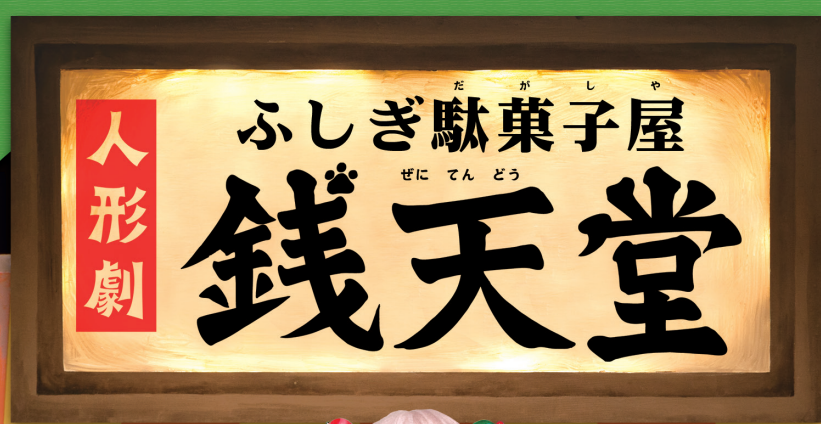


人形芝居「ひつじのカンパニー」
北村直樹さんを演出に招き、
初コラボ作品！



幸運なお客様だけがたどりつける駄菓子屋『銭天堂』。
あなたもたどりつけるとようござんすね。

～あらすじ～

クラスの音読大会に出ることに
なった萌美と慶司とえりか。
しかし、萌美がうまく音読できず、
えりかは不満でいっぱいだった。
また、慶司もお父さんと釣りに
行けないことに腹をたてていた。
そして、大泥棒になりたい男・江城秀元。

そんな中、
えりかと慶司と江城は、
ふしぎな駄菓子屋『銭天堂』の
駄菓子に巡り合う。
店主・紅子の販売する駄菓子は、
お客様に特別な効果もたらす。
3人の願いは叶うのか？

原作：『ふしぎ駄菓子屋銭天堂』シリーズ（偕成社刊） 作・廣嶋玲子 絵・jyajya

脚本：中村孝男 演出：北村直樹（人形芝居ひつじのカンパニー） 美術：小川ちひろ 作曲：庄子智一

～制作にあたって～ 最近、あまり見かけなくなった駄菓子屋には子どもたちの放課後の風景がありました。子どもの生活環境も様変わりし、時代の中ですたれていく生活文化なのかもしれませんが、今また児童文学「ふしぎ駄菓子屋銭天堂」の中でいきいきと息づいていること、称賛に値します。駄菓子屋といえば、街角や学校の周辺に店開きして店主は子どもに親しまれていました。あまいお菓子ばかりでなく時にはくじを引き、おまけも楽しみ。コマなど季節や流行の遊びのアイテムもあり、子どものたまり場でもありました。子どもにとって駄菓子屋は、学校や家族以外のおとなや仲間との出会い、商品を手にする体験の場など、駄菓子屋は社会参加へのアクセスといってもよいのではないのでしょうか。どんなに社会が変わっても子どもの文化環境をよくしていきたいと私たちは願っています。そんなおもいを舞台に込めました。